



2019・8・1

第 346 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

広範な人々と共同し草の根での宣伝・対話を

<九条の会声明>

参議院選挙後の

新たな改憲情勢を迎えて

2019年7月29日 九条の会

参院選を経て、安倍改憲をめぐる情勢は新たな局面に入りました。2017年5月3日の改憲提言以来、自民党は衆参両院における改憲勢力3分の2という状況に乗じて改憲を強行しようとさまざまな策動を繰り返してきましたが、その後2年にわたり市民の運動とそれを背にした野党の頑張りによって改憲発議はおろか改憲案の憲法審査会への提示すらできませんでした。そして迎えた参院選において、改憲勢力は発議に必要な3分の2を維持することに失敗したのです。

3分の2を阻止した直接の要因は、市民と野党の共闘が、「安倍政権による改憲」反対、安保法制廃止をはじめ13の共通政策を掲げて32の一人区全てで共闘し、奮闘したことです。また、安倍9条改憲NO！全国市民アクション、九条の会が、3000万署名を掲げ戸別訪問や駅頭、大学門前でのスタンディングなど草の根からの運動を粘り強く続けることで、安倍改憲に反対する国

民世論を形成・拡大する上で大きな役割を果たしたことも明らかです。

しかし、安倍首相は任期中の改憲をあきらめていません。それどころか首相は、直後の記者会見において「(改憲論議については)少なくとも議論すべきだ」という国民の審判は下った」と述べて改憲発議に邁進(まいしん)する意欲を公言しています。これは、安倍首相一流のウソを本当のように言うもので、参院選の期間中もその後も、「安倍政権下での改憲」に反対の世論は多数を占め、改憲勢力が3分の2をとれなかったことこそが真実です。

ところが、安倍首相は、自民党案にこだわらないと強調することで、野党の取り込みをはかり3分の2の回復を目指すなど、あらゆる形で改憲強行をはかろうとしています。

安倍9条改憲を急がせる圧力も増大しています。アメリカは、イランとの核合意から一方的に離脱し挑発を繰り返した結果、中東地域での戦争の危険が高まっています。トランプ政権はイランとの軍事対決をはかるべく有志連合をよびかけ、日本に対しても参加の圧力を加えています。こうしたア

アメリカの戦争への武力による加担こそ、安倍政権が安保法制を強行した目的であり、そして安倍9条改憲のねらいにはかなりません。辺野古新基地建設への固執、常軌を逸したイージスアショア配備強行の動きも9条破壊の先取りです。

6年半を越える安倍政治への不信とあきらめから、投票率が50%を割る事態が生まれています。この民主主義の危機を克服し再生するためにも、市民一人一人の草の根からの決起が求められています。参院選で3分の2を阻んだ市民の運動に確信をもち、安倍9条改憲 NO! の3000万署名をさらに推進し、広範な人々と共同して草の根から、9条改憲の危険性を訴える宣伝と対話の活動を強めましょう。

同時に、どんな口実であろうと自衛隊の有志連合への参加・自衛隊の海外派兵、さらなる軍事力の増強を許さない闘いを、安保法制の全面発動、実質的な9条破壊を許さない闘いとして取り組みましょう。

スタンディング 4年参加4千人

【長野県白馬村／白馬・小谷9条の会】

長野県白馬村で毎週金曜日のスタンディングアピール行動が7月19日、4周年を迎えました。午後1時から白馬駅前交差点で毎週アピール。この日は17人が参加しました。

アピール行動は、真夏の太陽の下、吹き付ける吹雪の中、雨の中、元旦でも続けてきました。白馬・小谷9条の会が呼びかけ、のぼり旗やメッセージボードを各自が持参。のべ参加者は3997人になりました。

15年末から毎週発行の「安倍政治を許さない白馬駅前金曜日のスタンディングニュ

ース」が継続の力になっています。白馬・小谷9条の会の速水政文さんが、前週に撮った写真と文章で作成し、参加者に手渡します。

速水さんは「この4年間はあつという間だった」と言い、次々と悪法を強行採決した安倍政権への怒り、うそとごまかしの政治は本当に許せない気持ちで継続してきたと発言。「戦後最悪のアベ政権を倒すまで粘り強く続けます」と語りました。

日韓関係緊張の背景を見る

【水戸市／九条の会・水戸】 水戸市で7月28日、「近現代史から見た日韓・日朝関係の行方」と題する学習会が開かれ、31人が参加しました。「九条の会・水戸」が主催し、茨城大学人文社会科学部の佐々木啓准教授が講演しました。

佐々木氏は、朝鮮半島で非核化への流れが強まる一方、東アジアをめぐる情勢は「歴史認識が足かせになっている」と指摘。サンフランシスコ講和条約や日韓基本条約締結の過程で、日本の植民地支配や戦争責任が曖昧になったと述べ、「徴用工」や日本軍「慰安婦」などの問題に対して、「被害者の尊厳を基軸にした解決の道を探る必要がある」と述べました。

参加した男性(73)は、「日本が過去に行った戦争責任を認める立場に立てば、外国との関わりや状況も平和の方向に変わると思う」と話していました。

戦争の悲惨さを俳句にこめて

【大分県／俳人九条の会・大分】 憲法、戦争、平和をテーマに毎年、大分県内外の

俳句愛好家らに投句を呼びかけている俳人九条の会・大分は7月25日、第13回平和・九条俳句大会を大分市で開きました。北海道や福岡など県外41人を含む112人の370句の中から互選で選ばれた入選作品が発表され、合評会が開かれました。

入選は、戦争の悲惨さ、平和を願う「赤紙にかくれて泣いた母の背な」「餓死と知るせめて大盛り御仏飯（おぶっぱん）」「春田打つここ九条の空の下」や、沖縄への連帯を込めた「戦わぬために闘う沖縄忌」「聞いて見て座る辺野古の麦わら帽」など11句。

会呼びかけ人の万葉太郎代表は「会発足から13年たつ今も次から次へと戦争体験をめぐる作品が生まれてくる。反戦・平和の願いの中に、くめども尽きない俳句の泉がある。9条改憲を許さないたたかいとともに俳人九条の会の運動を大いに発展させていきたい」と話しました。

不戦の誓いを心に刻む日に

【福井県／福井総がかりアクション等】

福井空襲（1945年7月19日）から74年をむかえ、犠牲者に対する追悼と憲法9条を守る思いを込めた集い（実行委員会主催）が7月14日、福井市で開かれました。犠牲者へ黙とうし、スピーチや詩の朗読、合唱などで再び戦争を繰り返させない思いを胸に刻みました。

戦争する国づくり反対！福井総がかりアクション（屋敷紘美代表）が、戦争や空襲を伝える活動を続ける「ゆきのした文化協会」に依頼して開きました。

福井空襲では、福井市中心部が焼け野原になり、死者1576人、重軽傷者6527人出

ました。

屋敷氏はあいさつで、「戦争や空襲という悲惨なことを二度としてはならないということを確認する日にしたい」とのべました。

会場には、空襲を伝える写真や絵画、戦時品など展示しました。

会場で友人と折り鶴を折っていた女子高校生（15）は「戦争の話はおばあちゃんから聞いています。戦争はたくさんの人の命を奪う」と語っていました。

戦争の悲惨さを若い人に

【富山県／憲法9条ファンクラブ】 [憲法9条ファンクラブ]結成15周年集会は、6月30日(日)午後、富山市のサンフォルテ305号室で開催されました。参加者から活発な意見が出され、「安倍9条改憲」を許さない決意を固めました。

第1都 『カラーで見る太平洋戦争～3年8ヵ月・日本人の記録』（NHK）の上映

第2部 [憲法9条ファンクラブ]総会

(1)主な歩み・会計決算報告 ①「9条の会」富山県連絡会などの憲法運動参加、②ファンクラブ事務局として4回の声明発表、③「9条の会」第9回北陸ブロック交流会(福井開催)参加、④9・9全国一斉「9条守れ」行動、⑤「第12回富山県憲法運動交流集会」参加、⑥毎月の事務局会議開催と広報誌の発行、⑦取り組みの実施や会の運営は会員からの「カンパ」で十分に対応できたこと等々、報告は全て承認されました。

(2)憲法をめぐる情勢・活動方針 ①安倍首相は9条改憲を執念深くたくらみ続けている、自民党「9条改憲案」の自衛隊明記は9条2項を死文化する危険なものだ。②市民

と野党の共同行動を発展させ、参院選で安倍自公政権にとどめをさし「改憲策動」の根をたつ。③日本国憲法、日米安保条約などの学習を深める、④広報誌「本誌、憲法ニューズレター」の充実を図る、⑤県内外の9条の会との連携・共同行動を深める、などを決定、最後に集会アピールを採択しました。

(3)主な発言・感想 「若い人に戦争を知らせる必要がある。戦争や9条を知らなすぎ。学校で先生が話すと圧力がかかると聞か気がかりだ」「富山大空襲を語り継ぐ会では小中学校で出前講座を行っている」「経済のグローバル化の害悪に目を向けるべき、水道の民営化など…」「トランプの『日米安保条約見直し』の発言は重大、真意をしっかりと把握すべき」「安倍政治に反対の運動をすすめている団体が数多くあるが、政治がよくなるということが気がかりだ」「反戦平和の憲法運動を最後までやりぬきたい」等々です。(「憲法9条ファンクラブニューズレター」第182号)

戦争体験を聞く会に向けて

【埼玉県東松山市／東松山九条の会】山田情一郎さんは秩父で公立中学校の教員をされていました。山田先生は戦災孤児です。平成14(2002)年に『学習院の戦災孤児たち』を出版されました。これは第2次世界大戦中の神戸大空襲で両親を失い、戦災孤児となった10歳から、独立して教員になる27歳までの17年間の波乱と逆境を生きる人生の軌跡をまとめたものです。

先日、久しぶりにお電話し、「東松山九条の会」主催の「戦争体験を聞く会」(8月18日10時～12時、東松山市民福祉センタ

一)にぜひ来ていただいて先生の体験を語ってほしいとお願いしたところ、快く引き受けていただきました。

先生はこの本に短いお手紙を添えています、その一部をご紹介します。

「人は、かけがえのないものを失うと、どんなに月日が過ぎてもその哀しみは消えず、受けた傷跡に深いものがあり、それは失ったものにしか分からない心の傷みとしていつまでも残っているものです。

ふるさとを失い、親や身よりのない、常に孤独と極貧のきびしい生計の中で、時には『生きていることが無意味なのでは…』と、思いながら、それでも生きてきた自分にとって『生きる、生きていく』とは、どういうことだったのか、あまりにも辛すぎて重かった戦災孤児としての人生をどのように生きてきたか、その生き方を中心に書いてみました。」 和泉町 篠田由美子

(「東松山九条の会ニュース」NO68)

九条の会には割引します

「ムッチャんの詩」DVD版

「九条の会ニュース」前号(345号)で、神奈川県厚木市のあつぎ・九条の会の記事で劇映画「ムッチャんの詩」上映会と参加者の反応を紹介しました。

「先の戦争で孤児となり、結核を患い防空壕に隔離されてしまった『ムッチャん』の短い生涯を描いた作品」と内容の紹介も。

DVDは、九条の会には定価2万2千円を1万円でお分けすること。

・監督 堀川弘通 ・映写時間1時間42分
・申し込み 関西共同映画社

069(3486)7719 FAX0721(23)7947